2021年9月：JaCVAM活動マンスリーレポート

NO.	項　　目	記　　載　　内　　容
論文・総説		
1	著者名	Nishida H[1], Ohtakea T[1], Ashikaga T, Hirota M[1], Onoue S[2], Seto Y[2], Tokura Y[3], Kouzuki H[1]
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	[1] Shiseido Global Innovation Center [2] Laboratory of Biopharmacy, School of Pharmaceutical Sciences, University of Shizuoka [3] Allergic Disease Research Center, Chutoen General Medical Center
	論文題名	In chemico sequential testing strategy for assessing the photoallegic potential
	雑誌名、巻（号）、ページ、年	Toxicology in Vitro. 2021;77, 105245. doi.org/10.1016/j.tiv.2021.105245
2	著者名	足利太可雄
	論文題名	In vitro/in silico試験による皮膚感作性の毒性学的懸念の閾値(TTC)コンセプトの確立
	雑誌名、巻（号）、ページ、年	Cosmetology, 2021;29, 62-66.

学会発表・セミナー発表		
1	発表者名（ポスター）	山口宏之[1,2], 押方歩[1], 小島肇, 竹澤俊明[1]
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	[1] 農業・食品産業技術総合研究機構　生物機能利用研究部 [2] 関東化学株式会社　技術・開発本部
	演題名	固体被検物質を適用するために改訂したVitrigel-EIT法
	学会名, 発表年月及び場所	日本組織培養学会第93回大会(2021.9.3,広島&Virtual)
2	発表者名（口頭）	小島肇
	演題名	化粧品の安全性と評価
	学会名, 発表年月及び場所	東京理科大学オープンカレッジ（2021.9.5,Virtual）
3	発表者名（口頭）	相場節也[1,2], 木村裕[1,3], 足利太可雄, 小島肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	[1] 東北大学皮膚科 [2] 松田病院 [3] 木村眼科
	演題名	Multi-ImmunoToxicity Assayとガイダンス化状況
	学会名, 発表年月及び場所	第28回日本免疫毒性学会学術年会（2021.9.7,Virtual）
4	発表者名（口頭）	足利太可雄
	演題名	皮膚感作性-IATAに基づくOECDガイドライン-
	学会名, 発表年月及び場所	第28回日本免疫毒性学会学術年会（2021.9.7,Virtual）
5	発表者名（ポスター）	足利太可雄, 西田明日香[1], 大野彰子, 飯島一智[2]
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	[1] 横浜国立大学大学院理工学府 [2] 横浜国立大学大学院工学研究院
	演題名	二酸化ケイ素ナノマテリアル曝露によるTHP-1細胞の活性化に関する研究
	学会名, 発表年月及び場所	第28回日本免疫毒性学会学術年会（2021.9.6-7,Virtual）
6	発表者名（口頭）	小島肇
	演題名	動物実験代替法の国内外の最新動向
	学会名, 発表年月及び場所	第15回皮膚基礎研究クラスターフォーラム(2021.9.15,Virtual)